

嘉義高級中学から 17 名の生徒と 1 名の引率教諭 龔 昱銘先生が来校しました。本校 SSH 事業では「トランス・サイエンス社会」で自己実現できる「科学技術イノベーション・リーダー」の育成を目指して研究を行っており、その一環として国際性、英語運用能力を伸ばし、科学技術への理解を深めることを目的とした国際交流に取り組んできました。今回の交流会では、異文化を楽しく学び、積極的なコミュニケーションを育むことができました。また、本校では来年 3 月には台湾研修を計画しており、今回の交流は台湾との絆をより深める良い機会となりました。



歓迎式

嘉義高級中学の生徒たちは、9 時前ほどに連坊駅に到着し、SSH メンバーでお迎えした後、歓迎式に移りました。歓迎式は両校の先生方や代表生徒の挨拶から行われましたが、終始和やかな雰囲気の中で包まれ、お互いの緊張がほぐれるような場となりました。特に、バディー達から楽しそうな話し声が飛び交っていたのが印象的でした。また、夏休み明けから 1 年間一高に留学する生徒もあり、良い顔合わせの場となりました。さらに、プレゼント交換では、嘉義高級中学から友好の印として一高を象徴する迫力ある絵巻が送られ、記憶に残るセレモニーとなりました。



嘉義高中代表生徒



遠藤校長と龔昱銘先生



歓迎の挨拶をする一高代表生徒

体験授業

歓迎式後、嘉義高級の生徒は本校 2 学年で行われている授業を体験しました。お世話役のバディ生徒の案内によりそれぞれの教室に分かれ、国語、数学、社会などの授業などを体験しました。来校した生徒たちは日本語の学習を十分に積み、日常的なやり取りが十分に可能であるため、授業内容も理解できた様子でした。一部の授業では、嘉義高級の生徒向けに特別授業を行なわれたり、笑い声であふれる様子見受けられたりなど、国際交流の生徒だけでなく、一般生徒にとっても特別な体験になりました。



一高科学の甲子園

体験授業後は、五階多目的ホールにおいて「一高科学の甲子園」を行いました。「A4用紙20枚を使用し、自立するできるだけ高いペーパータワーを作製する」ことが実験活動の内容でした。

ルールは以下の通りです。

- ①1チーム3人編成とする
- ②競技は1回20分で2回行う
- ③A4用紙のみで製作し、それ以外は使用しない
- ④紙を折り曲げたり、切ったりすることは可能、ただしのりやテープの使用は不可
- ⑤A4用紙20枚のすべてを使用する必要はない
- ⑥床の上からの高さを測定し、その高さを得点とする

以上のルールの中、英語による協議をしながら、各チームは工夫を凝らして熱心に取り組みました。上位3チームが表彰され、優勝したチームは130cmを超える構造物を作成することができました。



異文化交流会

昼食を挟み、午後は異文化交流会を行いました。一高学の校紹介や台湾の文化の紹介、フルーツバスケットやビンゴ大会などのミニゲーム、そして応援団パフォーマンスが行われました。中でも、嘉義高級中学生の方から台湾について、クイズと人形劇で紹介では、流暢な日本語は勿論、合唱やダンスまで披露してくれました！また一高からは、一高紹介や一高体操、景品をかけたゲームの企画で、終始笑いが絶えない楽しい交流ができました。そして最後に、嘉義の「友達」に向けた一高応援団のエールが送られました。生徒一丸となった迫力ある一高の応援に、生徒はもちろん先生までもが圧倒され、大きな衝撃を呼び起こしました。その後肩を組んで写真を撮ったり、地下鉄駅の改札口まで見送りをするなど、別れを惜しみました。



フルーツバスケット



台湾の生徒のパフォーマンス